

北陸技術士懇談会 総会・特別講演報告

■平成 30 年度 総会・特別講演会

平成 30 年度 北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を平成 30 年 6 月 2 日（土）、金沢勤労者プラザ 3 F 会議室で開催した。

【総会】

開会にあたり、有澤会長から挨拶があり、その後、会長が議長となり、議事を進行した。

1. 議事

- 第 1 号議案 平成 29 年度 決算（案）
- 第 2 号議案 平成 30 年度 決算（案）
- 第 3 号議案 平成 30 年度年間スケジュール（案）
- 第 4 号議案 役員改選について
- 第 5 号議案 会則改正について
- 第 6 号議案 総監の技術士試験講習会について
- 第 7 号議案 設立 50 周年事業について

2. 報告事項

3. その他

以上の内容について審議を行い、いずれも原案通り承認された。

なお、新役員として、会長に橋本栄治理事（福井）、副会長に大石守仁理事（富山）、理事に西出俊亮理事（福井）、野口将志理事（石川）、監事に庄田浩二監事（富山）、相談役に有澤良一相談役が承認された。



総会での有澤良一会長の挨拶

【特別講演会】

総会終了後、同会場において約 80 名の参加を得て、特別講演会を開催した。

講演 1：「白山の歴史と魅力」

講師 永井 隆一 氏
一般財団法人 白山観光協会 専務理事
元白峰村村長



永井隆一氏の講演

白山の歴史や魅力を年表や多くの写真を用いて紹介された。白山について多くの知見を与えていただき、大変興味深い講演であった。

(1) 白山観光協会の歴史

白山観光協会は歴史が古く、前身の白山振興会は大正 10 年に設立され

ている。財団法人になったのが、昭和 23 年で、今年でちょうど 70 年を迎えた。

歴代の会長は、参議院議員の方が多かったが、現在は、昨年、勇退された北村茂男先生に就任頂いている。また、評議員長に白山比咩神社の村山和臣宮司、理事長に安達明権宮司、そして、私が専務理事となっている。

また、白山振興会の事務局長は、日本画家の玉井敬泉さんが務められ、白山国定公園とか国立公園に尽力された。

平成 29 年は、明治 10 年に白山嶺上本社が奥宮と改称されて、140 年の節目であり、泰澄大師による白山開山より 1300 年の節目であった。

140 年以前の白山には仏様が置いてあり、仏教の山であった。江戸時代は、福井の平泉寺が管轄で仏教色が強かったが、神仏分離令で白山比咩神社が管理することとなり、昨年で 140 年ということである。

(2) 日本全国の白山、世界の白山・白い山

日本には白山という名前の付いた山が 26 と多くあり、世界では、中国と北朝鮮の国境にある太白山の他、キリマンジャロ、マウナ・ケア、モン・ブラン、ダウラギリがある。

実は、私は白山信仰と中国の太白山に関係があるのではないかと、白山を開山された泰澄大師が渡来系の方だという話もあったので、何かつながりがあるのではないかと調べに行ったことがある。ただ、最近の天気予報を見ると縁があると思うのは、太白山の所で気流が分かれて、日本の白山で気流が合流して大雪になるのが最近の説である。

(3) 白山の花

白山は、ハクサンの名前が付いた高山植物が多い。ハクサンが付いていないのは、オヤマリンドウとゴゼンタチバナがあるが、これは、白山を御山と言ったり、白山に御前峰があるので、一応、白山にちな

んだ名前とすると 20 種類ということになる。

(4) 白山にまつわる略年表

養老元年 (717) に泰澄が平泉寺の方から登り、白山を開山した。養老 4 年 (720)、『日本書紀』に白山比咩神社の神様である菊理姫の記載がある。延元元年 (1336) に、足利尊氏が岐阜県の白山長瀧寺に祈願とあるが、場所は違うが、有力な武将は、祈願したとか奉納したとか出てくる。元龜 2 年 (1571) に織田信長が石徹白山中居神社に鰐口を寄進している。徳川家康が毛利輝元を関ヶ原の合戦で抱き込むときに誓約書を交わしているが、そこには白山長瀧寺の判子が押してある。一方、1500 年代には、結構噴火の記録がみられる。白山火山の噴火の周期が 400~450 年であったので、私の村長時代も国土交通省などに陳情に行った。

(5) 白山信仰の始まり

白山には二つの信仰が存在していた。一つは、神の聖域として遠くから眺めて神秘を感じ、山の神に感謝をささげる「遥拝」。もう一つが、白山は独立峰で、日本海側を航行する船にとっては目印ということで、漁師に信仰されている。

御師という信仰を広めた修験道が、岐阜の石徹白には多くいたと言われている。44 都道府県で、大正 2 年には 2716 社、平成 21 年には 2600 社の白山神社が存在している。

(6) 都道府県別白山神社の分布

白山神社の一番多いのは岐阜県である。約 400 ある。二番目は石川県で約 300 あり、これは、やはり白山比咩神社が白山の山頂を管理するようになったことが大きいと思われる。

(7) 白山かんこ踊り

白山かんこ踊りというのは、泰澄大師が白山を開山して下山してきたときに、村民が心配して迎えに行ったのと出会って、喜んで踊りだしたのが始めと言われている。

代表的な歌詞に「白山山の雷の鳥」、これは、ライチョウのことである。昔、やはりライチョウがいたということである。白山のライチョウが絶滅したのは、人が捕ったと言われているが、ライチョウの羽は、火事よけや災害よけのお守りとして売られていたそうである。

(8) 白山室堂宿泊者数

最近の室堂の宿泊者数は、25000 人くらいである。室堂ビジターセンターは、全国でも 2 番目に大きな

山小屋である。

(9) 霊峰白山の自然と暮らし

白山は、別山、大汝峰、御前峰の三つからなる。別山は、岐阜や福井の方面から登ってくることになる。白山からは、アルプスが良く見える。アルプスに登山される方が、どこから見ても白山が見えるので、一度は登ってみたいという方がお見えになる。

富士山、立山、白山を日本の三名山、三霊山と呼んでいるが、三名山は江戸時代から、白山を含んで言われるようになった。

深田久弥さんの「日本百名山」にも白山が出てくるが、白山の山頂の景色を書いた部分があるので、是非読んでいただきたい。

(10) 昭和 9 年手取川大水害

別当大崩れは、昭和 9 年の大水害の時に大崩壊した場所である。手取川大水害では、112 名の死者、行方不明者が出ている。今でいう深層崩壊と言われている。百万貫岩は、実測では 120 万貫あるらしいが、120 万貫で約 4900 トンとなる。

(11) 白山の砂防工事

白山の甚之助谷の階段状堰堤群は、土木遺産として、国の登録有形文化財に指定されている。中飯場は、日本で初めて無人化クレーンで施工したところである。

(12) 高山植物保護事業

高山に高山植物が生息するのではなくて、平地の植物に負けて高山にだけ残ったという学説があった。そこで、私が村長の時代に、それを確かめるために標高 2000m 前後の高山植物を白峰くらいの高さで、高山植物の保護事業をやっている。

(質疑)

- ・泰澄大師は渡来人か？白山の神様は渡来人か？—よく言われるのは、泰澄大師が渡来系の方の子供という話が多い。菊理姫はもともとくくりひめが菊理姫となったが、高句麗姫と近いので、それで、渡来系の信仰ではないかという説もある。
- ・山岳のトイレはどのようなシステムか？—浄化槽方式だが、凍結対策や浄化槽の菌が動けるような温度をいかに保つかが課題である。
- ・どのルートから白山に登る方が多いのか。雨の場合の楽しみ方は？—花の時期ならば、花を見ながらといえるが、雨が降ると見るわけにいかない。砂防新道は、砂防用にできた登山道である。古道に近いのは、観光新道である。

講演 2 : 「ランドスケープアーキテクトの目」

講師 鏑 隆弘 氏

金沢美術工芸大学 環境デザイン専攻 教授



鏑隆弘氏の講演

技術士は、エンジニアという職能であるが、ランドスケープアーキテチャーという職能の話であった。また、デザインや、借景、侘び寂びなどをわかりやすく説明して頂き、大変興味深い講演であった。

(1) ランドスケープアーキテチャーとは

この職能が出来たのは、160~170年前、アメリカのニューヨークにあるセントラルパークという大きな公園を設計したオルムステッドという人が作った言葉である。

ランドスケープアーキテチャーが扱う分野は、自然と人為、ネチャーとアートというところである。私達は、自然環境というものに何らかの形で関わっていて、今、文化とは何かというと、自然への関わり方だということだけで全て言える。ランドスケープアーキテチャーの扱う分野は、自然と人為のつなぎ方というか、関わり方をデザインする、あるいは造り方の分野である。

本日は、ランドスケープアーキテチャーの考え方を紹介したくて、三つの題材を持ってきた。まずは、デザインとは、それから、借景と侘び寂びについて話したい。

(2) デザインとは

デザインとは、何か装飾的なものを作り出すというイメージがあると思うが、言葉自体は、「線を引く」とか「描く」という意味である。装飾を作ることが本質ではなく、伝えるということである。

では、どのように伝えるか。それは、二つにまとめられる。一番目は、「わかりにくいものをわかりやすく伝える」、二番目は、「少し先の未来の形を見せる」ということである。

わかりやすくするために、新たな視点を作る。未来を見せるということで、少し先の未来の視点を作って見せるということがいえる。

デザインの伝え方にも二つあって、一つは物として伝える。例えば、時計やペンなど、その形に惚れ

て買う。格好良さとか所有することの満足感や優越感とかを持つという、それもデザインの価値である。物として価値を伝えるということである。

もう一つは、体験価値である。例えば、20年前、携帯電話が普及し始めたころは、携帯電話の形にこだわっていて、クリックしたら開くとか、色がどうだとか、日本でも何社も作っていた。しかし、スマホになって、形にこだわって買う人はいなくなった。スマホで何が体験できるかが価値となっている。体験価値とは、物を使って体験できる楽しい時間に価値があるということである。

(3) 借景

借景は、英語では borrowing view と言う。京都に圓通寺という寺があるが、元は天皇の別荘として建てられたが、その後、寺として使っている。

この圓通寺の庭を造った人は、後水尾天皇で、他に修学院離宮と京都御所にある仙洞御所を造っている。これに桂離宮を並べると、大体一直線となり、どれも比叡山を眺めるようにできている。

この人は、長生きで84~85歳まで生きられた方で、在位は19年である。在位している間か、その後も造ったと思うが、何をしたかという、比叡山を含めて満月がよく見える場所を探させている。

借景とは、どんなものかという、例えば、寺とか眺める場所があって、眺める対象として山がある。それから、近くに庭園があり、庭園の境に生垣、あるいは塀があって、不可視領域という見えない場所がある。これらがセットでないと借景とは言わない。

また、私が調べたところでは、向きがあって、大体東向きである。東向きがいいのは、午前中は、東から日が昇って、手前の庭が照らされる。遠くの山は、逆光で割とシャドウで見ることになる。昼は、近いところも遠いところも照らされて、同じようなトーンに見える。そして、夕方は、西側から日があたって山が赤く染まる。手前の庭は、建物の影となり、暗くなるので、山が良く見えることになる。借景の中で最も奥行きが感じられる眺めとなる。

(4) 侘び寂び

例えば、庭が仕上がったときは、実は、完成ではない。それから何年かして、ちょうどいい頃合いの木の育ちとか、石の苔のむし方とか、そういった時期があって、ちょうどいいバランスが一瞬だけ来る。そういったバランスがちょっとでも狂うとクオリティが下がって、また違うバランスでいい時が来る。

いつも無常というか、それが当たり前の世界だと思っただけとよい。

日本一だと評判の足立美術館があるが、いつも変わらない風景を見せるために、見えないところに同じく刈り込んだ松とか、色々な木がストックされていて、ちょっとでも形が変わると入れ替えるそうである。私は、あれはあれできれいな見せ方の1つだと思うが、少し違うのではないかなと思う。

一番いい時の形があって、常にそれは形を変えているのだが、微分するとプラスが侘びで、マイナスが寂びだと思う。だんだんクライマックスに向かって良くなる時が侘び、そして、クライマックスを過ぎてだんだん変わっていくのが寂びと理解するとわかりやすい。

(5) まとめ

今日は、三つの事例を話した。まず、デザインとは、伝えることなのだが、伝える時間の長い、短いにも意味がある。長い時間、眺める、考えることでしかわからないこともある。例えば、庭を見学しても大体30分くらいだが、朝から晩まで見ていたら違うだろうなということは想像できる。庭のデザインを見ると変化ということに本質があると思う。

それから、借景も、ほとんどの方は一瞬しか見る時間がない、長く滞在しないとと思うが、それもやはり長く滞在することで見えるものがある。

最後に、侘び寂びについても、何年、何十年という長い時間の中で楽しめるものかなと思う。

(質疑)

- 最近、住民参加で住民の意見を取り入れながらデザインしていくという手法が変わってきているが、プロがデザインするのではなく、全くそうしたことを知らない方の意見を入れて計画設計していくことに対しての経験や考えを教えてください。一住民の方と一緒に作る機会は何度かあるが、沢山出てくる意見は資源の1つだ捉えて、それをどう組み合わせるのか、どう解釈して扱うかということだと思う。プロの立場として、コーディネートはできるし、住民の方の要望を含めて資源を見せてほしい、教えてくださいというのは、こちらの立場かなと思う。
- 私は、美しいと醜いという感覚が良くわからないのだが、例えば、世界の100人の美女というのがあるが、好き嫌いは別として、皆さん美しいと感じた。一方で、例えば、昔の日本人はおたふく顔

が美しいとか、下唇にお皿を入れた人が美しいとか、ピカソの絵を美しいと感じるとか、そのような美しいと普遍的に感じるのは、一体何なのか教えてください。一確かに美人の尺度は、18世紀、19世紀のヨーロッパのバレエダンサーが細い人が多くて、あれが一つの基準となっているのが影響しているらしい。しかし、最近のマネキンは、少し太めがいいとか、黒人も並ぶようになってきて、少しずつ変わってきていると思う。また、哲学という言葉は、明治期は審美学と言っていた。その美学を哲学と言い換えたそうである。哲学という思想を考える、私たちの本質は何かということを考えるときに、美しさとは何か、それは議論の対象で、今も続いていると思う。

- 以前、中国の瀋陽に行ったが、清王朝の故宮が世界遺産に指定されて観光客がたくさん来ていた。その正門の裏側に40階建てぐらいのホテルが王宮の上から20階分くらい顔を出していた。これについては、政府の指導で20階分は壊すという説明があったが、日本で借景に不要なものが建った場合に、壊した事例があるのか。一借景ではないが、東京の国立市で駅前通りにマンションが建って、上の部分を取り壊しなさいという命令が出たと思うが、この前行ったが残っていた。

【交流会】

総会及び特別講演会后、金沢勤労者プラザ1Fのレストランで、講師を囲んで交流会を行った。今度副会長の挨拶・乾杯の後、講師との懇談の他、会員同士の交流が活発に行われ盛会であった。

大石副会長の音頭で中締めの後、散会となった。



交流会の一コマ

(石川 埒 正浩)